

教育課程の基準の特例を活用した学びのシステム

中等教育学校では、中高一貫教育校として特色ある教育課程を編成することができるよう、法令により「教育課程の基準の特例」が認められています。平塚中等では、高校の学習内容（国、社、数、理、英）の一部を、前期課程で学習します。平成27年度は、次のようになっています。

【前期課程】（※本校では、1時間45分を年間39時間で積算しています。）

国語・社会・数学・理科・外国語（英語）の授業時数を各学年バランスよく増加し、選択教科としてではなく、増時数した必修教科として全員が学習します。各教科の年間授業時数は次のとおりです。

	国語	社会	数学	理科	外国語（英語）
1年	140+35 (週1時間増)	105	140+70 (週2時間増)	105+35 (週1時間増)	140+35 (週1時間増)
2年	140+35 (週1時間増)	105+35 (週1時間増)	105+105 (週3時間増)	140	140+35 (週1時間増)
3年	105+70 (週2時間増)	140	140+70 (週2時間増)	140+35 (週1時間増)	140+35 (週1時間増)

●時間を増やした教科の充実した学習内容

国語	1年	週1時間書写の時間として確保し、書道の時間を充実させる。
	2年	発表活動を充実させる。
	3年	国語総合における古典の文法を前倒して、学習する。
英語	1年	英語の授業で学習した内容を週2時間発信型の授業(English Communication)により確実に習得させている。中学1～2年生相当の英語を扱う。
	2年	英語の授業で学習した内容を週2時間発信型の授業(English Communication)により確実に習得させている。中学2～3年生相当の英語を扱う。
	3年	英語の授業で学習した内容を週1時間発信型の授業(English Communication)により確実に習得させている。中学3年～高校1年生相当の英語を扱う。
数学	1年	式の計算(中2)、連立方程式(中2)、不等式(数I)、1次関数(中2)、図形と合同(中2)、三角形と四角形(中2・高数A)を前倒して学習する。
	2年	式の計算(中3・高数I)、平方根(中3・高数I)、2次方程式(中3・高数I)、関数 $y=ax^2$ (中3)、確率と標本問題(中3)、図形と相似(中3)、線分の比と計量(高数A)、円(中3・高数A)、三平方の定理(中3)、数と式(高数I・II)を前倒して学習する。
	3年	2次関数とグラフ(高数I)、図形と式(高数II)、三角比(高数I)、三角関数(高数II)、集合と理論(高数A)、場合の数と確率(高数A)、式と証明(高数IIA)、複素数と方程式(高数II)を前倒して学習する。
	4年	データ分析(数A)、整数の性質(数A)、いろいろな関数(数IIⅢ)、平面・空間ベクトル(数B)、微分法・積分法(数II)、数列(数B)を前倒して学習する。
社会	2年	地理的分野、歴史的分野の学習時間を増やして学習する。
理科	1年	中学理科1の基本的実験技術の習得について、広く深く学習する。
	2年	高校化学基礎の「自然と人間」、「物質の構成と化学結合」を前倒して学習する。

【後期課程】

●後期課程における外国語（英語）の学校設定科目について (注) 単位数＝週の時間数

科目	履修年度	単位数	主な内容
英語探究A	4年次	3	前期：語法のまとめ/後期：速読
英語探究B	5年次	3	前期：速読/後期：自由英作文

●後期課程における数学の履修状況について

科目	履修年度	単位数	内容終了時期
数学I	4年次(前期)	2	4年次前期までに終了
数学A	4年次(前期)	1	4年次前期までに終了
数学II	4年次(後期)	3	4年次後期までに終了
数学B	5年次	2	4年次後期までに一部終了
数学III	5年次	4	5年次までに終了